

## 令和2年度 千歳市市民評価会議議事録

会議名	市民評価会議（第7回）		
日時	令和2年7月2日（木）14：00～16：45	場所	議会棟大会議室
出席者	委員：5名、アドバイザー：1名、事務局：3名		

評価対象 施策	(1)「集荷・物流機能の確保」 (2)「自然環境保全対策の推進」 (3)「高度技術産業集積地域の形成」 (4)「教育活動の充実」
会議概要	4施策について、第4回及び第5回市民評価会議におけるヒアリング内容を踏まえ、評価のまとめを行った。 今後の作業としては、本会議において抽出された評価結果を、事務局が報告書（案）として取りまとめ、第8回市民評価会議に諮ることとした。

### ヒアリング・評価内容

#### (1) 集荷・物流機能の確保

・施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

##### 【委員A】

市民にとってなくてはならない施設ではない。市内の生産者を守るという意味では公設市場として一定の役割を果たしていると思うが、市民にとって身近に感じられる施設ではない。

何を指すのかということがはっきりしていないと、多額の税金を掛けて施設を整備するという話にはならない。

場外市場を中心街に作り、近くで食事や買い物ができるような施設があると良いのではないかと。施設整備に掛かる費用対効果を考えると市内ばかりを見るのではなく、もっと道外や海外を見据えた取組をすべきと考える。地産地消をやっているだけでは、冷蔵庫などの整備について市民の理解を得るのは難しい。

また、千歳市に荷捌き場があると良いという意見を聞くので、そういったことも検討すべき。

##### 【委員B】

市場の位置付けを考え直す必要がある時期ではないか。その上で整備を進める必要がある。

##### 【委員C】

市場感謝祭の年に1回のイベント開催では、市民に根付かないと思う。もっと市民が身近に感じられる施設になってほしい。どこかに海鮮物を送るとなるときは、みんな恵庭に行っている。市内にみんなが海産物を買いきくような場所があってほしい。

##### 【委員D】

感謝祭は、市場関係者のためになっていないと思う。市場の行っていることを市民が知る機会としては貴重だが、本来行うべきことは市場関係者のための取組ではないか。

##### 【委員A】

感謝祭は、開催しても赤字で労力が掛かるイベントなのだが、それでも開催しているのは、施設の現状を知ってもらい、施設改修に対する市民の声が高まることを期待しているからだと思う。

【委員B】

食品を扱っている施設なので、最低限、衛生環境を整えてほしい。

【委員E】

市場に関する情報公開がしっかりとできていない。

【委員A】

指定管理について考えていない訳ではないが、具体的にどこまで指定管理とするのかが決まっていな。今後、施設を整備するのであれば、しっかりとした計画と将来性を描く必要がある。

【委員B】

将来的に「拡充」「重点化」するためには、プランニングをしっかりと行うこと。そうしなければ市民の理解は得られない。

【委員A】

廃止を検討していた施設であることを考えると、「維持」するだけでも大変なことだ。油断すれば「廃止」という議論になるので、前向きな意見として「維持」で良いと思う。

## (2) 自然環境保全対策の推進

・ 施策内容の方向性「維持」      実施コストの方向性「維持」

【委員A】

数年前よりも自然の大切さは市民に浸透している。より意識を高めるために、市民と一緒に活動することが重要ではないか。自分がやったことには関心を持つものだ。

自然を守ることが観光に繋がると考えている。市民にとって当たり前なのが道外・海外の人にとって魅力的なものということがよくある。

【委員B】

小学校などで自然環境保全の学習を行うなど、他施策を巻き込んだ取組をしていくべきだ。

【委員A】

市内の自然に関する映像は、ドローンで撮影したものなど素晴らしい素材がある。

環境は複数の施策があるが、それらを連動した取組を期待したい。

【委員C】

青葉公園で監視員と市民と一緒に調査をするような取組をすべきではないかと考えているが、市民協働事業をやらうとしたとき、市の採択を受ける必要があり、そのハードルが高い。

【アドバイザー】

市民協働をもう少し広い意味で捉えた方が良い。市から採択を受けて補助金をもらって実施するような事業だけでなく、お金を掛けなくても実施できる市民協働はたくさんある。

【委員A】

監視員と小学生などが一緒に散策するなど、お金を掛けなくてもできることがある。

【委員B】

指標については、現状の取組を把握できるものに見直してほしい。

## (3) 高度技術産業集積地域の形成

・ 施策内容の方向性「維持」      実施コストの方向性「維持」

【アドバイザー】

申請件数に対する採択率が非常に高い。

【委員 E】

認知度が低い制度であるため申請件数が少ない。また、申請するまでに財団と相当やり取りをするので、申請したものは、ほぼ採択される。

また、指標については、申請のサポート件数など、市がどの程度関与しているのかということが分かるものであるべきではないか。採択を受けた知人から、市が全く関与していないという話を聞いた。

【委員 A】

市の独自性がないのであれば、他施策と統合することを検討すべきだ。

また、行っていることと施策名が一致しない。現状のままであれば、市の施策として掲げる必要性が見えない。

【委員 C】

構成する事業が自主事業であるにも関わらず、市独自の内容が見えない。

【委員 A】

現計画を策定した 10 年前は、今と状況が違ったのかもしれない。

【委員 B】

市に地域の開発拠点を作ろうと考えていたが、ITバブルが弾けたことで計画通りにいかなかったというのが実態。

課としては道央産業振興財団のほかに PWC（特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソーシアム）のサポートを行っており、そちらがメインになっている。

【委員 A】

助成申請のサポートと申請を受けた企業のその後の事業効果の追跡を行うべきだ。

【委員 B】

科学技術の推進について、長期的な展望を持つべきであり、財団と PWC との関わり方についても見直す必要がある。

【委員 C】

施策の目標は達成できているのだろうか。

【委員 A】

採択の実績は毎年あるので、達成できていると言えるのではないか。

【委員 D】

財団が行っている助成に「ひとづくり支援事業」があるが、市民も利用できるのだろうか。

【委員 E】

これまで市内の採択はないようだ。周知不足が原因だと思う。幅広い分野に活用できる自由度の高い制度なので、周知に力を入れてほしい。

【委員 A】

市民が活用したいと思ったときのサポート、事業採択後の追跡を行うべき。でなければ他施策との統合を検討すべき。

【委員 B】

PWC の助成は会員でなければ受けられないが、財団は市や市民のための助成制度なので、そこをしっかりと PR してほしい。

#### (4) 教育活動の充実

・ 施策内容の方向性「拡充」 実施コストの方向性「重点化」

【事務局】

評価結果について、事業構成の妥当性を「B」としていたが、先日のヒアリングを受けて「A」

評価に修正している。

**【委員 A】**

教育については、携わる人の想いが重要であり、担当する職員は自信を持って取り組むべきだと考えている。そのため、ヒアリング時にも事業構成の妥当性は「A」だと自信を持って評価してほしいと意見させていただいた。

国際化を目指す千歳市として、国際性豊かな児童・生徒となるような教育を進めるべきだと考えている。ぜひ特色のある部分を伸ばしてほしいので、「拡充」「重点化」すべきだ。

**【委員 D】**

地域教育についてだが、地域の人たちと学校を繋ぐ役割としてPTAに地域委員がいると良いのではないかと。以前住んでいたところでそのような制度があり、良い制度だと思った。

**【アドバイザー】**

教員や学校関係者へのサポートが必要との意見がヒアリング時には出ていたが、その点についても市独自の取組が行われているという印象を受けた。

**【委員 B】**

これまで推進してきたICT教育を、コロナ禍において発揮すべきであり、新たに出てきた課題に対して積極的に取り組んでほしい。